

支出を抑えて、歳入を増やす議案を藤本市長が提出
 「所沢市旧浄化センター跡地」を売却して、歳入を増やします。
 その為の手続き予算が今議会で成立しました。紹介します。



旧浄化センターの門
 ・（東所沢和田にあるベルクの向え側）



センター内の旧浄化槽です。解体します

「浄化センター」は、所沢市の下水処理場でした。浄化槽で浄化して柳瀬川に流していました。その浄化センターに集められていた市内全ての下水を平成24年度に、埼玉県荒川領域下水道に編入し、荒川領域下水道センターで浄化するようになった為に廃止されました。

この跡地にある建物や浄化槽等を解体し、斜めになっている土地を平らな更地にする必要があります。解体、更地整備費用は、10億円以上です。このままにしても年間維持費が1,000万円はかかります。そこで、市は「この跡地を今のままの状態売却する事にしました」

市はこの土地は「準工業地」で、約1万坪なので売却先は「産業系の企業」を主にしたい。そこで市民の雇用を増やしたい。（＝障害者雇用、太陽光施設設置もする企業へ）又、柳瀬川側隣接は住宅街なので、分割して住居を作る企業も考えている。と説明。売却先企業が、解体・整備を行うのが条件。実現すると、それらの企業が固定資産税を収めるので市の歳入が増える。固定資産税は年間約「2,500万円」入るとの事。

浄化センター建設時に国の補助金があったので廃止時に「5億円の補助金返還」を求められましたが、市長・担当職員が国と何回も交渉し返還金は「320万9千円」になりました

「西武車両工場跡地の鉛の除去」を市が指導する
 ～所沢駅西口まちづくり再開発へ繋がる～

7月25日、西武車両跡地がある東住吉町内会住民の25名の方が、西武車両跡地内に点在する（10数か所）鉛汚染の箇所を視察しました。市の街づくり計画部と環境クリーン部の担当課長、職員の方7人と、西武ホールディングス、西武鉄道の担当者の方が10数名参加し説明をしました。西武から「住環境に多大なる影響を与えるので、市の指導を受けて鉛のある土壌を除去する」と説明がありました。まずは建屋がない場所から、除去するとの事です。参加した住民の方々は安心していました

みえ子のおしゃべり
 私は、斉藤市長、当麻市長に「第2市民ギャラリー敷地の有効活用として、公共施設設置を入れる事を条件として、民間に売却するよ」質問しましたが実現しませんでした。今回、藤本市長には初めてしました。市長答弁から実現の可能性が見えて来ました。支出を抑え収入を増やす市長の方針です